

## 語はどの前置詞を選択するか —前置詞の意味から見た場合(2)

小 川 明

8. 本稿は、小川(2002)から続くものである。小川(2001)では、(1)動詞・名詞・形容詞は特定の前置詞を伴うこと、(2)類似した意味を持つ語は、一般に同一の前置詞を選択し、個別に覚える必要がないこと、また(3)前置詞の選択は、意味が土台であって語彙範疇とは関係ないことを示した。小川(2001)ではある語がどんな前置詞と結びつくのかという点から検討したのであるが、この一連の論考では、それとは違う角度からこの問題を調べてみたい。あるひとつの前置詞がどんな語と結びつくのかという逆の視点からこの問題を観察してみたい。

9. まず前稿の小川(2002)で述べたことを整理する。例えば、どんな語がforと結びつくのか、意味で分類してみると次のようになる。

- (24) (尊敬) admiration, adoration, esteem, regard, respect, reverence, veneration  
(軽蔑) contempt, disdain  
(好き) care, like, love  
(嫌い) dislike, hatred, loathing  
(後悔) pity, regretful, repentant, sorry  
(望む) desire, hope, long, pine, wish; anxious, eager, greedy  
(要求) ask, beg, claim, demand, petition, plead, request, require

(追求) aim, hunt, look

(向かう) bound, head, leave

(理由) cause, ground, reason

小川(2001)で明らかにしたように、意味が類似していれば、同じ前置詞を取るのであるから、逆に同じ前置詞を取る語は意味が似ていそうであるが、実際調べてみると、(24)が示すように、そのようにはならない。かなり多様な意味を持つ語と結びつくのである。これはひとつの前置詞が多様な意味を持っていることと関係する。そのひとつひとつの意味がある特定の語と結びつくのである。それゆえ前置詞の多義性の問題と係わっていかざるをえない。

それでは for がどの位たくさんの意味を持つかを『ジーニアス英和辞典』を参照して調べてみよう。

#### (25) 目的

- 1 [方向・対象] the train for London, pity for the poor
- 2 [目的・目標] work for one's living, seek for fame
- 3 [受容者] a phone call for you
- 4 [準備] prepare for an examination
- 5 [支持・賛成] vote for a measure, stand up for women's rights
- 6 [敬意・記念] give a party for a new ambassador

#### 交換

- 7 [代理・代用・代表] substitute margarine for butter
- 8 [交換・代償・等価] I bought the book for five pounds.
- 9 [資格・特性] use coal for fuel

#### 理由

- 10 [原因・理由・結果] for this reason

#### 関連

- 11 [関連] be good for one's health
- 12 [適否] books for children

## 範囲・時間

13 [期間・距離] I have been here for six weeks.

(24)と(25)は同一の現象を表と裏から見ているものであると見做すことができる。一方からのみ見るのでは不十分であろう。前置詞の持つそれぞれの意味を考慮しないで、前置詞を丸ごとひとつのものとして考えるのでは、不十分なことが明らかである。

10. 以下いくつかの前置詞を取り上げて、ひとつの前置詞がいかに多様な意味を持つ語のグループと結びつくのか調べて示してみたい。そしてそのひとつひとつ観察をしてみて、どんな問題が出てくるのか考察する。

ここでもう一度整理をしてみる。最初に語から出発し、その語がどんな前置詞と結びつくのか調べた。そして類似した意味を持つ語は統語範疇のいかにかわらず同じ前置詞を伴うことが明らかになった。今度は逆に前置詞のほうを基準にしてどんな語と結びつか眺めてみると、相当意味が異なるグループの語と結合することがすぐ明らかになった。これはひとつの前置詞がかなりたくさんの意味を持つことによる。この延長上に出てくる問題のひとつは、そのグループ同志の間の語にはどのくらい親近性が見られるかという問題になる。それに接近するためには、前置詞が持つさまざまな意味の間の親近性の問題に係わることになる。前置詞の多義性の問題に行き着くことになる。

現在、認知言語学において前置詞の意味の拡張の問題が注目を浴びている。例えば Lee(2001)、Lindstromberg(1998)、Goddard(2002)など。また学習という点からは、学習者は前置詞の意味をどんな順序で習得していくのが問題になっている。例えば Hayashi(2001)。

意味の拡張のひとつの例として、Lee(2001)で扱われているthroughについて簡単に紹介してみよう。場所的な概念がより抽象的な領域での思考の仕方にも及んでいることが、throughを用いて説明されている。この語が、いかにすこしづつ用法をずらしていくか、次の例文をみると明らかである。

- (26) a. The train rushed through the tunnel.  
b. The brick smashed through the window.  
c. She drew a line through five points.  
d. John was walking through the grass.  
e. One of the buses, its windows draped in black, drove in through the massive green gates of the cemetery ramparts.  
f. Just as he leaves for Australia, Pope John Paul II has been handed a book that is sending shockwaves through the Australian Catholic Church.  
g. Sue has gone through all the chocolate.  
h. The premier wants his industrial relations minister to hack his way through the state bureaucracy.  
i. The service is available through public hospitals.  
j. Through the acquisition of regional and suburban papers, HWT established itself for the first time as a publisher in NSW.  
k. It was through John's stupidity that Max didn't get the contract.

throughのいちばん基本の意味は、(a)におけるように、立体の中を突き抜けていくということである。以下の例は少しずつ(a)とは、ずれている。(b)では、突き抜けていく対象物は立方体ではなく平面であり、(c)では点である。(d)ではトラジェクターであるJohnはランドマークであるgrassの上へ突き出ている。(e)では間を通り抜けていく。(f)、(g)では、ランドマークは単に存在しているものではなくて、影響を受け、変化をするものである。(g)ではチョコレートは無くなってしまふのである。また逆に(h)では通過していくランドマークは困難を示すものである。(i)ではランドマークは手段になっている。(j)-(k)ではランドマークは物でなく過程である。

11. ここではコロケーションからこの意味の拡張の問題にアプローチしてみたい。注意したいことは、動詞と形容詞については、(27)が示すように、同伴する前置詞は常に後続するが、名詞については、(28)が示すように、先行するときと後続するときと2種類あることである。

(27) a. agree with, arrive at, depend on, dispense with, pine for  
b. angry with, anxious about, bound for, responsible for, rich in

(28) a. clue to, obstacle to, power over, pride in, reason for  
b. at college, in need, at rest, for sale, in sorrow, on vacation  
最初にinについて調べてみる。

#### [場所]

面 field, garden, open, street, London, France

立方体 house, room, store

本来の行為をする場所を示す場合には、可算名詞であっても原則として冠詞が付かない。

in bed, in church, in hospital, in jail, in prison, in school

これは交通手段を示す場合と似ている。実際の場所を示す時は、on the train, on the bus, in the car, aboard a small planeであるが、手段を示す時は、by train, by bus, by car、by planeになる。

#### [身につけている物]

色・素材 black, red, white; silk

衣類 bra, clothes, coat, dress, dressing-gown, panties, rags, suit, trousers, uniform

手袋・履物 gloves, hat, shoes, slippers, socks, stockings

その他 armour, glasses, spectacles, sunglasses, wig

これも中に入っている意味と結びついていると考えられる。hat, shoes,

slippers のようにほんの一部が入っていても in が使われる。Lindstromberg(1998:71-2)によると、Hottenroth(1993)は、普通に使われるinに関しても、中に入っているものが完全に入っていないで、突き出ている、inが使われる事実を指摘している。例えば、ある容器にモモが入っていてその上にバナナを置き、それが容器の縁より上に突き出ているでもin the bowlでよい。

小西(1976:373)は「人の身なり・服装などを描写する場合、inとwithは交錯するが、まず原則的にはinは(特に体全体をおおう)衣類全体について用いられる。」Perez(1973)によれば shoes, hat, gloves, spectaclesなどはinよりwithのほうが好まれるという。これらは体のほんのわずかの部分を覆っている、inとは結びつきにくいと推理できる。しかし小西は「むしろinのほうが好まれるようである。」と述べる。多分このことは、言語では一旦ある流れができると、元々のことが忘れられていくのではないかと思う。いわゆる「文法化」がその典型であろう。もともとは全体をおおう意味であったのだろうが、「身につけるもの」ということが前面に押し出されてそれがinを伴う条件に変わっていったのではなかろうか。

[天候・明暗] cold, dark, fog, light, rain, shadow, snow, sun(shine)  
漠然とであるが、中に居るという感じが、私にはする。しかし今までの場所と異なるのは、外側の枠がはっきりしていないことである。無限に広がっているように思われる。これはin the roomのroomと比べてみるとわかる。

今までは、物理的空間であるが以下では抽象的場所がinの後に続く。

[内容を含んでいるもの] book, chapter, film, letter, newspaper, opinion, photograph, sentence, story

[分野・範囲]

大きさ・長さ depth, diameter, height, size, width

方角 direction

以下は in [分野・範囲]と後にinを伴う語のグループを意味で分類した。

量 affluent, deficient, lacking, rich, plentiful, poor, wanting

性質・状態 charming, experienced, generous, inherent, justified,  
mistaken, moderate, nice, outstanding, persistent, vital,  
zealous

得意・不得意 backward, efficient, excellent, good, poor, skillful,  
skilled, strong, (un)successful, weak

多くの語はatも伴う。

関心 absorbed, engrossed, entangled, interested

ただし keen は on を取る。

喜び delight, enjoyment, exult, joy, rejoice

誇り pride

信頼 believe, confidence, faith, trust

授業・訓練 class, course, drill, education, exercise, instruction,  
lesson, practice, schooling, training

学位 degree

専攻 major, minor, specialize, specialist

参加 enlist, enroll, participate

干渉 interfere, meddle

[状態]

以下は前にinを取る語を意味で分類したものである。

身体的 agony, comfort, coma, daze, dream, faint, flap, flutter,  
health, pain, spin, swoon, trance, uproar

感情的 alarm, astonishment, surprise; dismay, fear, fright,

horror, panic; anger, fury, rage; joy, sorrow; despair,  
disgust, distress, ecstasy, excitement, love

情況 bustle, haste, hurry, rush; disorder, mess, order;  
adversity, difficulty, trouble; condition, state; assent,  
agreement, dispute; concert, contrast, harmony; blaze,  
flames; bloom, flower; flood; abeyance, action, company,  
danger, debt, eclipse, emergency, error, fashion, flight,  
force, session

複数形で生じるものがある(cf.小西(1976:240))。

ashes, holes, knots, rags, ribbons, ruins, shambles, shreds,  
strips, tatters, threads

他動詞に由来する名詞からなり、物を主語に取り、受身形(My jewels  
are now pawned.)あるいは受身の進行形(The word is being used.)  
に相当するものがある(cf.小西(1976:240))。

bondage, care, confinement, custody, deposit, detention,  
pawn, reserve, stock, storage, store  
circulation, demand, request, doubt, need, draft, manuscript,  
employment, play, power, preparation, print, process, pro-  
gress, question, repair, sight, use

いくつか他の前置詞との対立について触れておこう。移動している状態を示すmotion, movement, flow, migrationは、inを伴うが、静止状態を示す場合は前置詞はatになり不定冠詞がつく。例えば、この類に入るのは、close, deadlock, end, halt, impasse, pause, rest, standstill, stop等である。どうしてinではなくatなのか。動かないのはある一点で止まっているからか。それゆえatが典型的に意味する点と結びつくのだろうか。

また次の場合にもinではなくatである。進行時制に相当する。人が主語になる。



enmity, fault, issue, labor, odds, play, risk, stake,  
variance, work

また増減を示す語の時、inだけでなくonも取り、その時は一般に定冠詞を伴う。

decline, decrease, increase, upswing, wane

ただしinとonでは少し意味が異なる。原沢(1979: 119)によれば、They keep telling us the family is in decline.ではis in declineはhas declinedをさらに状態化したものである。これに対しThe lady had lost one eye and the other was very much on the decline.は方向性を示す。beginning to declineの意味である。どうしてこのような差が生じるのであろうか。

移動を示す時もonである。この時冠詞によって2種類に分かれる。定冠詞がつくのは、go, move, runである。それにたいして不定冠詞がつくのは、cruise, errand, hike, march, picnic, ride, trip, walk, voyageなどである。

監視している状態はinではなくonである。

alert, guard, lookout, patrol, prowl, watch

攻勢・守勢も on the defensive, on the offensive のようにonを取り冠詞が付く。監視・攻勢・守勢は人が主語になり、従事しているというとらえ方をしているからだと思われる。

[職業] business, politics, trade

今までは場所の延長であるが、時間の領域にも進出する。

[時間]

期間・時期 childhood, future, infancy, life, evening, day, week,  
month, year, decade, century

経過 a minute, a day, a week

しかし場所と比べて種類はとても少ない。このことは外界に対する人間の認識の仕方が場所に関しては豊富であり、時間に関しては、貧弱であることを示唆するのであろうか。やや似た例は、視覚についての表現は gape, gaze, glance, glare, goggle, look, observe, peek, peep, see, squint, stare, watchと豊富であるのに対して、聴覚と嗅覚については少ないことである。例えば、聴覚は、hark, hear, hearken, listen とそんなに多くはない。

これまでは、「中に入っている」という意味が比較的明白であるが、次はその意味から離れていると思われるものである。以下のグループは、すべて前にinを伴う。

[方法] fashion, manner, way

[表現手段]

用具 crayon, ink, pen, pencil

色 color, blue, red

言語 French, dialect, nutshell, phrase, sentence, term, word

声 mumble, voice, whisper

文字 capital, character, code, letter,

形式 longhand, shorthand, prose,

[形状] circle, line, ring

[集団] body, colum, group, mass

[単位] couples, dozens, twos, pairs

[量] abundance, bulk, plenty, quantity

これらのグループがどのように基本の場所の意味と関係しているのか、いまのところ明らかではない。このような場合、inだけを問題にしていればよいのであろうか。他の前置詞との「棲み分け」という観点から解決できないだろうか。英語における静止した場所を示す基本的な前置詞は、atとinとonの3つだけと思われるが、例えば[集団]を示す語と結びつくのはその内のinが一番びったりする。このような仕方前置詞の選択が決定されることはないのであろうか。これは将来の問題としたい。

以上、inとどんな語のグループが結びつくか調べてみた。考察すべき問題は多いように思う。その他の前置詞を調べてみると、共通の問題がありそうである。以後、代表的な前置詞をコロケーションの観点から順次調べてみたい。

#### 参考文献

- Goddard, Cliff(2002) *On and on: Verbal explications for a polysemic network*, *Cognitive Linguistics* 13, 277-294.
- 原沢正喜(1979)『現代英語の用法大成』大修館.
- Hayashi, Masato(2001) The acquisition of the prepositions “in” and “on” by Japanese learners of English,” *JACET BULLETIN* 33, 29-42.
- 小西友七(1976)『英語の前置詞』大修館.
- Lee, David(2001) *Cognitive linguistics*, Oxford University Press.
- Lindstromberg, Seth(1998) *English prepositions explained*, John Benjamins
- 小川 明(2001) 「前置詞の選択の原理について—語はどの前置詞を伴うか」『英語英文学研究』7, 65-79, 東京家政大学英語英文学会.
- 小川 明(2002) 「語はどの前置詞を選択するか—前置詞の意味から見た場合(1)」『英語英文学研究』8, 61-74, 東京家政大学英語英文学会.